

経営比較分析表（平成30年度決算）

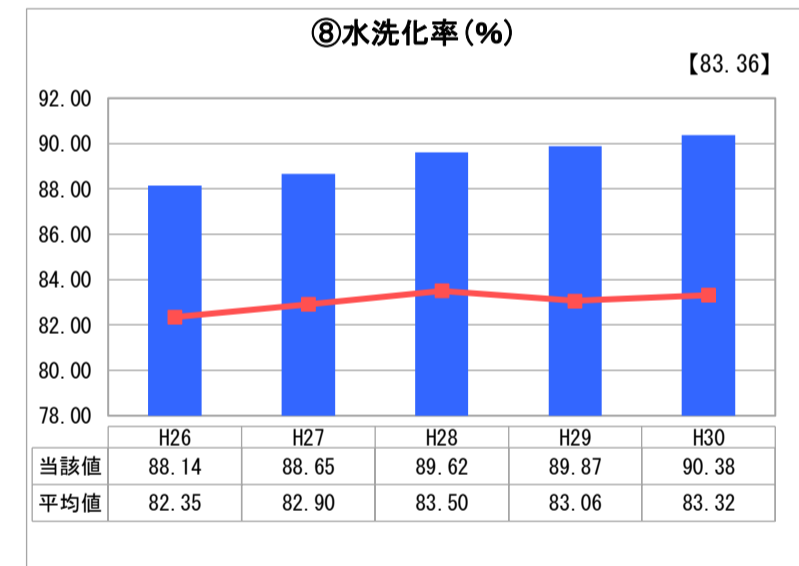
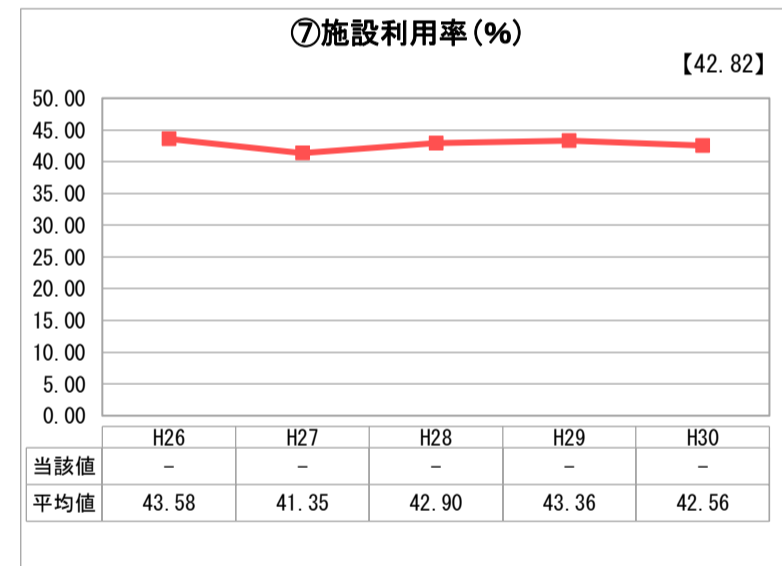
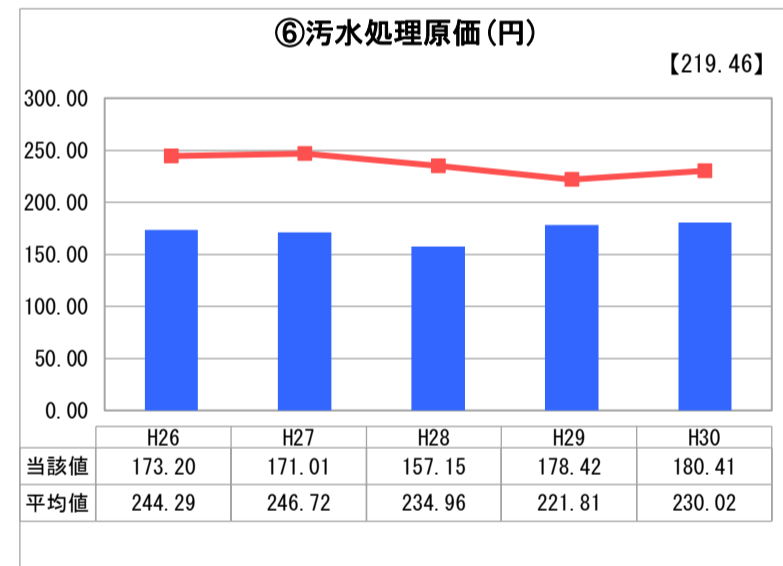
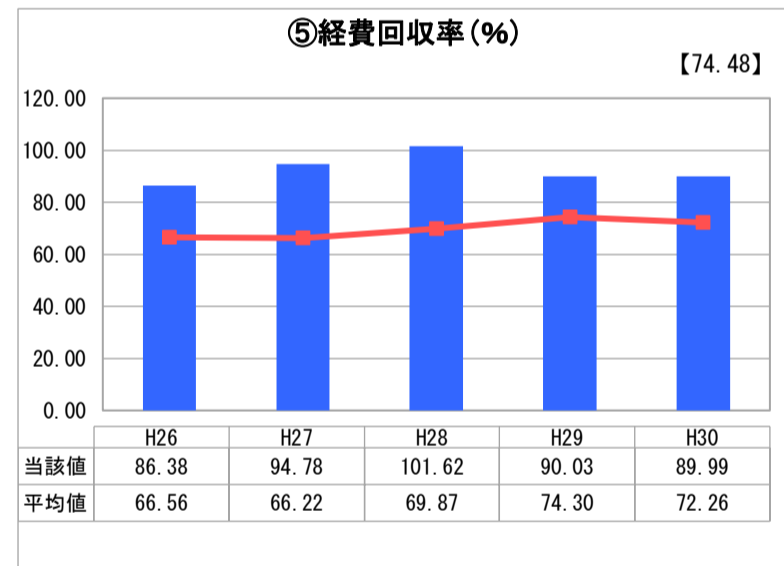
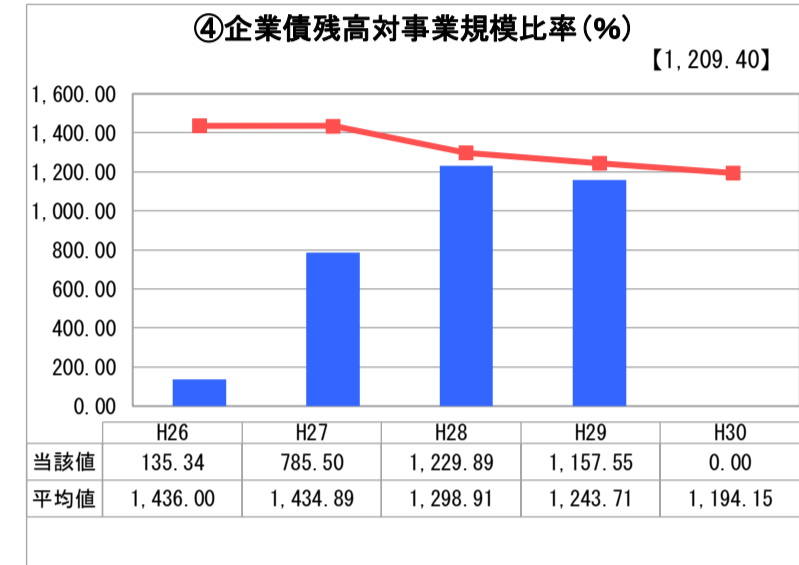
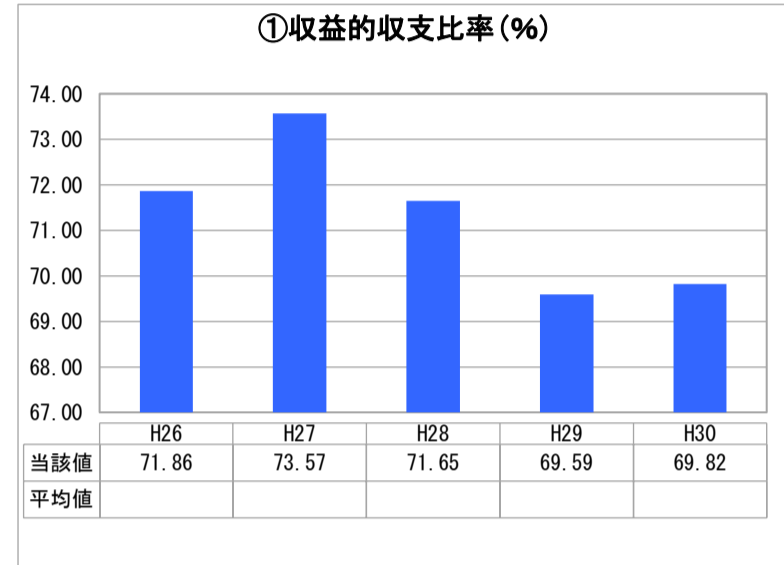
山形県 三川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	64.34	91.27	3,373

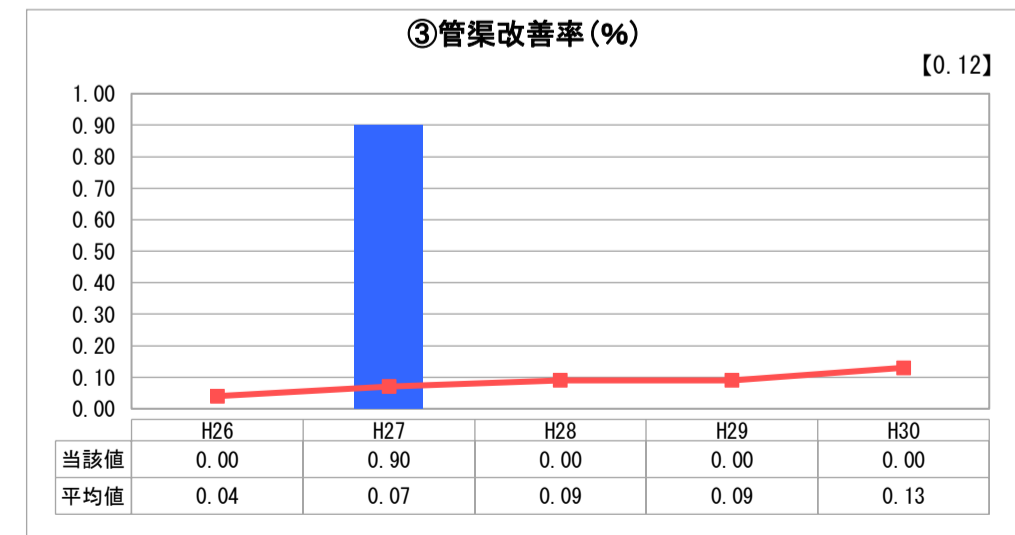
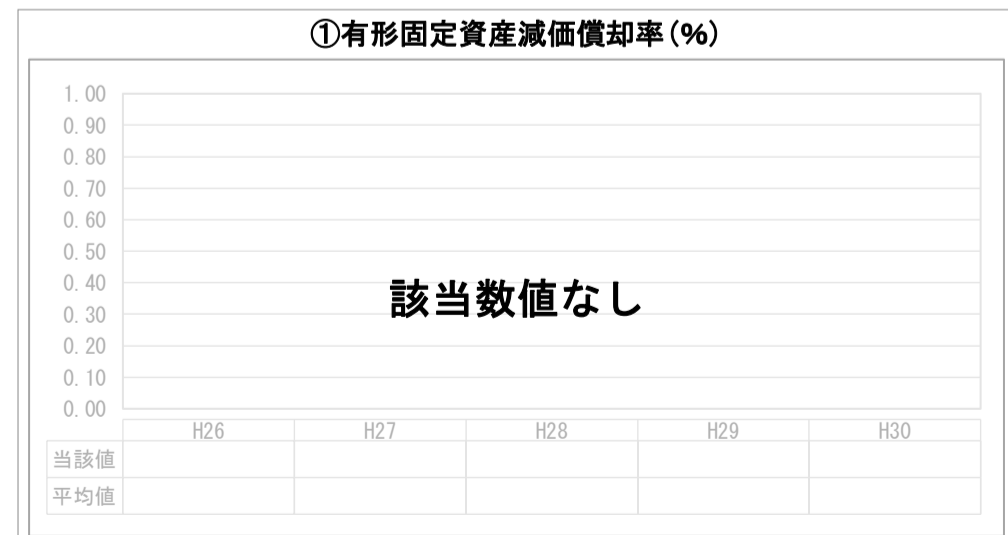
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,400	33.22	222.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,751	2.53	1,877.87

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、平成26年度は維持管理費の内、マンホールポンプで使用する電気使用料の料金改正による増加や地方債償還金額が増加したことから減少しました。平成27年度は使用料金を約8%上げたことから、比率が上昇しました。平成28年度以降は地方債償還金額が増加したことから、比率が減少しています。

②と③は、本事業が公営企業法非適用のため、該当数値はありません。

④企業債残高対事業規模比率は、使用料収入に対する企業債残高の割合である。平成30年度は0%であるが、これは現在の地方債の償還財源である一般会計繰入金での負担を適用するものとして算定したためである。

⑤経費回収率は、類似団体平均値を上回っています。平成27年度は、使用料金を約8%上げたことから改善しました。平成28年度は、水洗化率の上昇に伴い料金収入が増加したため経費回収率も上昇し、平成29年度と30年度は約90%となっている。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値を下回っていますが、維持管理費など汚水処理に係る経費が増大していることから、汚水処理原価は高くなっていきます。

⑦施設利用率は、汚水全てを山形県最上川下流域下水道に接続しているため、本事業での該当数値はありません。

⑧水洗化率は、類似団体平均値を若干上回っていますが、未水洗化世帯への接続を啓発し、今後も水洗化率を100%に近づけることが課題です。

2. 老朽化の状況について

①は、本事業が公営企業法非適用のため、該当数値はありません。

②管渠老朽化率は、法定耐用年数を越えた管渠がないため、該当数値はありません。

③管渠改善率は、平成29年度末時点で汚水管渠の総延長は約47kmありますが、法定耐用年数を越えた管渠はありません。

平成10年度より一部管渠の供用を開始しており、平成20年度より汚水管渠の点検・清掃を、上流部より行っております。今後も、腐食のおそれの大きい管渠や重要路線の点検等を優先的に行う予定です。

全体総括

現在の経営状況は使用料収入だけでは賄いきれず、町の一般会計からの繰入金を充てて事業を運営をしています。

公営企業として経営の健全化を図るため、平成25年度に下水道料金等検討委員会を開催し、平成27年4月より約8%引上げの料金改正を行いました。今後も、公営企業会計の法適用に向けて料金の適正化に向けた検討を行います。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。